

「保健医療科学」  
第72巻 第5号 予告

**特集：介護保険における保険者機能強化の現状とこれから（仮題）**

地域づくりに着目した保険者機能強化にめぐる政策動向（仮題）	岸英二
地域包括ケアシステム構築に向けた保険者機能強化の現状と課題（仮題）	岩名礼介
保険者機能強化に向けた評価の考え方と課題（仮題）	筒井孝子
保険者機能強化に求められる自律的な地域マネジメント力向上—市町村と都道府県の役割—（仮題）	大野孝司
ソーシャル・マーケティングの手法を用いた保険者機能強化（仮題）	長谷田真帆
保険者機能強化にむけたPDCA推進へのロジックモデルの活用（仮題）	松本佳子
保険者機能強化の推進に向けた都道府県・指定都市への人材育成（仮題）	大冢賀政昭

**編 集 後 記**

公衆衛生分野では様々なデータを利用して研究が実施される。本特集で取り上げたデータベース研究は蓄積されたデータを活用する研究であるが、仮説とデザインを設定した上でそれにしたがってデータを収集・解析する研究（例えばRCTなど）もある。それぞれエビデンスレベル、コストと手間などが異なるが、それぞれの特徴を踏まえて選択して利用することができる。

一方、そのような選択ができない学問分野も存在する。例えば、気象、地震、天体などの自然現象を対象とする学問分野では、自然に介入することはほとんど不可能であるため、蓄積された観測データを利用するしかない。また観測データにはノイズが多いため、公衆衛生分野のデータベース研究と同様に、データを研究に活用できるようにするための様々な工夫が必要となる。

データベースは自らデザインして収集したデータと比較すると制約が多いかもしれないが、工夫次第で解決できる部分も多い。その点については、自然現象を対象とする学問分野から学ぶことも多そうである。

（公衆衛生政策研究部 武村真治）